

学校教育目標	「ちからいっぱい」 やさしく・かしこく・たくましく ～知・徳・体・コミュニケーションの調和のとれた人間性と、未来を切り拓く力を身につけた児童の育成～
目指す学校像	「笑顔と希望にあふれ、みんなに愛される学校」 ～「認めて育てる」教育の推進～

重点目標	1 個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実を目指した授業改善 2 豊かな関わり合いを通じた活気あふれる教育活動の推進・充実 3 コミュニティ・スクールを活かした特色ある学校づくり 4 安全で美しい教育環境の整備と適切な予算執行 5 教育DXの本格展開による「教え方」「働き方」の改善・向上
------	--

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己 評 価				学校運営協議会による評価	
		年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和9年2月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
学びの質の向上に 関する取組	1 (現状) ○全国学力・学習状況調査では、どの教科も全国、全市平均と比べ良好な結果である。市の学習状況調査結果においても同様に良好であり、基礎学力が定着している。 ○ICTの活用については、教員によっての格差はなくなりつつある。また、児童のICT能力が高く、日頃の学習では意見交換や調べ学習等でタブレット型コンピュータを積極的に活用して学びに向かう児童が多い。 (課題) ●全国学力・学習状況調査の結果分析から、記述式の問題で無回答率が高かった。根拠や理由など自分の考えを表現することに苦手意識をもっている児童が多い。 ●カリキュラム・マネジメントの見直しと一層の工夫を図っていく。	・基礎基本の定着と学びの自律化に向けたICTの活用、授業改善 ・カリキュラム・マネジメントの充実	①「学びの指標」を生かした授業の達成状況について各教員が客観的に振り返り、授業力向上を図る。 ②ICTを効果的に活用し、自分の思いや考えを表現する力を高めたり、児童同士で意見を共有して表現したりする授業を進める。	①「学びの指標」のすべての項目で平均値が3.2以上でかつ、1回目と比較し2回目の結果が向上したか。また、学校評価の児童アンケート「授業の内容は、よくわかりますか」において、肯定的回答が95%(R7:94%)以上になったか。 ②学校評価の児童アンケート「授業では書いたり発言したりして自分の考えを伝えていますか」において85%以上(R7:80%)の肯定的な回答が得られたか。			
			①全国学力・学習状況調査や市学習状況調査等の結果分析、学校課題研修、学校カウンセリング研修等を通して、教員の授業改善を進める。 ②カリマネ・デザインマップを見直し、教育課程編成の工夫を図る。 ③相互授業観察や授業研究会を実施し充実させ、PDCAサイクルを実現させる。	①市学調のアンケート「主体的対話的で深い学び」の項目で8つの質問の平均を93%以上になったか。(6年生) (R7:91.1%) ②随時カリキュラム・デザインマップを手直ししながら、教育計画を進めることができたか。 ③相互授業観察や授業研究会を実施し授業改善が図れたか。			
子どもの発達や 心のサポートに関する取組	2 (現状) ○市学習状況調査で、設問「学校に行くのが楽しい」に肯定的な回答をした児童の割合は6学年中4学年であるが、設問「自分にはよいところがある」では2学年と少ない。 (課題) ●学校評価アンケートの『悩みや困ったことを先生に相談できますか』の項目で約20%の児童ができていないと回答している。 ●スクールダッシュボード等のデータの活用を進めていく。	・自己肯定感を育む、児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実	①年度当初に「元気アッププロジェクト」について全教職員で共通理解を図り、教職員の個性や持ち味を生かした活気ある教育活動を推進する。 ②スクールダッシュボードや定期的なアンケート・面談の実施、SoLaの一むの効果的運営により児童の状況を細やかに把握・分析し、適切なタイミングで組織的に支援・相談を行う。	①学校評価「毎日、元気に登校している」が94%以上(R793%)、市学習状況調査「学校は楽しい」において、肯定的な回答の割合が88%(R7:85%)以上となったか。 ②学校評価の教職員アンケートの項目「教育支援・相談」において100%(R7:99%)達成、保護者アンケートの項目「家庭への連絡」において95%(R7:93%)以上の肯定的な回答が得られたか。			
			①各種ボランティアや地域諸団体による協力や、本校HPを通して学校運営協議会及びSNSの情報を発信して学校の様子等を家庭、地域と共有する。 ②運動会の充実や、地域懇談・育成会等への参加、地域の方を招いた給食試食会の実施等を通して、学校の情報提供と共に、要望等にも耳を傾ける。	①学校評価の保護者アンケートで、「学校や地域の特色を生かした教育活動に取り組んでいる」と回答する割合が96%(R7:96%)以上となったか。 ②学校自己評価の保護者アンケートで、「保護者や地域の方々に学校を知ってもらう努力をしている」と回答する割合が95%(R7:98%)以上となったか。			
地域ととも に 関する取組	3 (現状) ○学校公開や各種お便りや学校行事等で学校の様子を伝えることができています。 ○学校と地域の連携が図れており、学校行事や親子夕涼み会、3世代ふれあいフェスタ、公民館祭等を通して学校・家庭・地域全体との結びつきを強めることができた。 ○児童・保護者の悩みやトラブル、いじめや問題行動等に対して家庭やSC、SSWと連携しながら、迅速かつ丁寧に対応することができた。 (課題) ●児童の地域行事への参加が少ない。 ●児童の学校運営協議会への参加 ●挨拶等を通して顔の見える関係づくりを進め、学校と地域、関係する諸団体との結びつきを確かなものにしていく。	・情報発信や学校公開の工夫、充実 ・トラブル等における適切な対応と地域総がかりによる挨拶を通じた地域教育力の向上	①教育相談日等の活用、児童と向き合う時間の確保、報・連・相を徹底し、いじめや問題行動に対して迅速かつ丁寧にチーム桜木の組織対応を図る。 ②地域行事への参加の呼びかけや学校・家庭・地域でのあいさつの励行を推進する。	①学校評価の保護者アンケートで、「子どもや保護者の悩み、トラブルについて、適切に対応している」に十分満足と回答する割合が55%(R7:50%)以上となったか。 ②学校評価の保護者アンケートで、「あいさつが進んでできる児童の育成に努めている」に十分満足できると回答する割合が58%(R7:56%)以上となったか。			
			①月の安全点検の報告について事務や教頭と情報を共有し、速やかに対応する。 ②事務職員と常に情報を共有し、12月までに適切な予算執行を終える。	①安全点検後の修繕等対応未実施1件以下にしたか。 ②12月末の予算執行80%以上にする事ができたか。			
教育環境の整備に 関する取組	4 (現状) ○施設・設備の不具合によるけが等は少なく、定期的な安全点検も行われている。 ○修繕の必要な場所について適切に対応してきた。 ○校内けがマップを作成し、事故防止の意識を高めることができています。 (課題) ●経年劣化も含めて修繕が必要な場所に適切な対応が必要である。 ●清掃指導や安全指導など、教職員の指導について共通理解、共通指導を徹底する。	・確実な安全点検の実施と適切な修繕対応 ・計画的で適切な予算執行 ・清潔、安心安全な居場所づくりと児童の自己管理能力を育む各種取組の充実	①安全できれいな環境づくりに向けて児童・教職員共に整理整頓の意識を高め、校内けがマップの活用やけがの発生場所や原因の分析共有を行う。 ②生徒指導委員会や児童会(高学年)を中心に廊下歩行・右側通行や、清掃活動の徹底を図る。	①学校評価の保護者アンケートで、「安全できれいな環境づくりに取り組んでいる」の「十分満足できる」回答が60%(R7:58%)以上になったか。 ②学校評価の保護者アンケートの設問「健康安全の指導」の「十分満足できる」回答が65%(R7:63%)以上になったか。			
			①学期に1回以上、スクールダッシュボードを含めICTの効果的な活用方法について学ぶ研修を実施する。 ②個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を目指し、教員が個人課題を設定し、実践に取り組み、学校全体の授業力を高める。 ③業務改善を図りながらも、教師としての働き甲斐を感じながら、お互いを尊重し、高められる組織を構築する。	①学校評価の教職員アンケート「視聴覚教材の活用」において95%(R7:90%)の肯定的な回答が得られたか。 ②全ての教員が授業改善を行い、学校自己評価の教職員アンケート「研修」項目で、「強そう思う」回答の割合が40%(R7:36%)以上となったか。 ③時間外勤務時間を24時間以内(R7:24h20)とし、教員等の勤務に関する意識調査で「負担や多忙感を感じる」の項目をおよそ10%低下させ70%にする。(R7:78.5%)			
教職員のキャリア形成に 関する取組	5 (現状) ○課題研究を通して、全教職員が授業改善のための校内授業研究会を実施した。 ○生成AIの認定校として、生成AIの授業利用について校内研修を進めることができています。 ○会議の精選や行事の重点化を図り時間外勤務時間の削減が図れている。 (課題) ●ICTの効果的な活用方法については、学校DX推進部が中心となり検討・周知する。 ●校内研修や学年会で、個々の悩みや課題等を適時共有し、主体的な研修の充実を図りたい。	・一人ひとりが力を発揮し、学校力を高め、学校に集う誰もが居心地のよい(Well-Being)学校づくりの推進					